

# 昭和45年度 和歌山県文化功労賞

かつ よし のり  
勝 慶 徳

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：大阪府大阪市

生 年：明治35年

## ◎業績及び経歴

大正15年京都帝国大学医学部卒業後、同学部助手を経て更に大学院に進んだ後、昭和4年同学部講師となり、同8年医学博士、同年和歌山赤十字病院産婦人科医長に着任、和歌山を第二の故郷とし、同22年病院長に就任して現在に至る。

着任以来一貫して今日に至るまで38年間、研究、臨床に専念し、本県産婦人科医療の進歩向上に格段の貢献をし、現在もなお活躍を続けておられることについては、県民ひとしく賞讃するところであって、信望の的となっている。

更にこの間、和歌山県母性保護医協会々長、和歌山県病院協会々長、和歌山県医療機関整備審議会委員等数多くの役職につき、医療保健の向上、医療施設の拡充強化に献身的に尽力され、また学会に30篇以上の貴重な論文を発表するとともに昭和33年には欧米各国へ、また同42年にはオーストラリア、ニュージーランドの国際産婦人科学会に出席、更に各国の医療施設の視察研究をするなど国際的にも幅広い活躍を続けている。

特に子宮がんの研究治療については岡林式手術術式の普及に努めて永久治癒率を飛躍的にたかめるとともに、県内に初めて放射線療法を導入して、手術不可能ながんの治療成績をとみに向上させると同時に予防の立場から、早期検診を率先して強力に推進し、幾多の貴重な生命を救済し続けている功績はまことに顕著で、泰斗 その道の権威者と仰がれている。